

～人権が尊重されるまちをつくろう～

～身近な生活の中から学ぼう～

2022.6.21

第 11 号



人権・同和教育だより 丹波篠山

発行

丹波篠山市
人権・同和教育研究協議会
TEL・FAX 079-593-1260
http://t-s-doukyou-hr.jp
〒669-2734 丹波篠山市宮田240
丹波篠山市役所 西紀支所3F
年3回発行 6・10・2月

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会 2022年度活動計画について

5月14日(土)に「丹波篠山市人権・同和教育研究協議会 第24回定期総会」を開催しました。議案は2022年度活動方針および事業計画・予算を含め、すべて承認されました。また、記念講演では、「今こそ伝えたい 丹波篠山の人権史跡 「明治2年の世直し一揆について」と題し、市同教 啓発推進委員 人権の歴史調査研究班の方々に講演いただきました。



基本方針(要旨)

1. 今なお存在する部落差別をはじめ、あらゆる人権課題の解消を図り、すべての人の幸せにつながる「人権のまちづくり」を推し進めます。
2. 「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」等人権関係法令の趣旨を踏まえ、人権確立をめざす個人、団体、機関等と広く連帯し、差別のない共に生きる社会をめざします。
3. 人権・同和教育の学習活動の場を充実し、差別を許さない市民意識の醸成、人権意識の高い人づくり・世間づくりに努め、こころ豊かな共に生きる市民社会をめざします。

活動方針(要旨)

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会は、発足以来「差別の現実に深く学ぶ」ことを基本理念として、同和問題をはじめ、あらゆる人権課題の解消に向けて取り組んできました。また、今年は差別からの解放を実現するための全国水平社が創立されて100周年にあたります。「水平社宣言」は日本初の人権宣言といわれ、人権問題の克服に向けた原点であり「社会と向き合う指針」となっています。

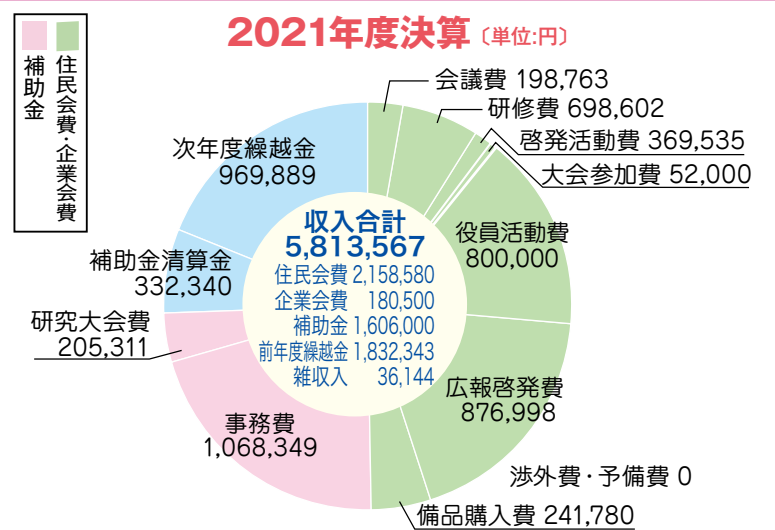
しかしながら、私たちの社会は、今なお人権に関わる大きな問題を抱えています。認知症への無理解や偏見、子どもや若者の貧困、「ひきこもり」に関わる問題、LGBTQ+^{注1)}など性的マイノリティー^{注2)}への無理解、ヤングケアラー^{注3)}の問題などもあげられます。また、ネット社会の到来は、世界を急速に結び付けて情報の拡散と交信を促進させましたが、同時に差別、偏見、憎悪なども増幅させ、新たな人権問題を起こしています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大は、新たな差別を生むなど人権に関わる問題を提起するとともに、人々の生活や経済活動の変化をもたらした経済的な困窮の問題も生じてきました。次の世代に繋いでいくためにもSDGs(持続可能な開発目標)の推進に取り組まねばなりません。今、ウクライナへの軍事侵攻がなされています。私たちは、「戦争は最大の人権侵害」の立場から一刻も早い戦争終結を願います。

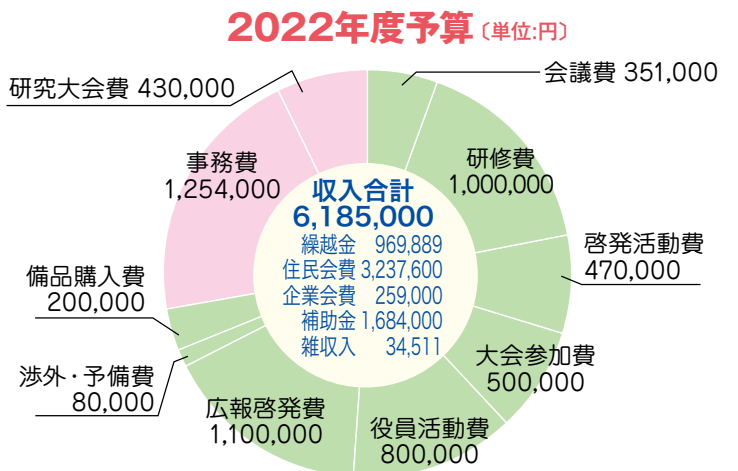
私たちの周りには、このような多くの課題がありますが、まず私たちの人権意識を点検し、人権意識を高め、人権意識豊かな個を確立するとともに、人権意識の高い社会を作ることが求められています。そのために、人権・同和学習の場を活用し、正しく理解し、「差別を許さず心豊かな市民社会」を実現しましょう。

本年度も、コロナ禍ではありますが、活動や事業の手法を工夫し、市民の皆様と共に、市民一人一人の人権が侵害されることなく、誰もが幸せを実感できる人権を大切にしたいまちづくりを進めます。

注1) 身体の性別、自認する性別、好きになる性別、表現する性別などの組み合わせによって、一人一人の性のあり方は異なります。そうした性の多様性のことを言います。
注2) 少数派のこと。
注3) 家族や近親者などで、心や体に不調のある人の介護・看病・療育・世話・気づかいなどを無償で行う子どものことを「ヤングケアラー」と呼びます。



※補助金は、市からの補助金8,941,000円より人件費7,335,000円を除いた事業補助金です。



※補助金は、市からの補助金8,934,000円より人件費7,250,000円を除いた事業補助金です。



2022年度の出発にあたり

会長 溝畑 賢

一昨年から新型コロナウイルス感染症が、いまだ終息しない中での新たな年度のスタートとなりました。早く終息を迎えたいものです。皆様、お大事になさってください。

今年は、全国水平社創立100周年にあたります。その時の「水平社宣言」は日本初の人権宣言といわれ、人権問題の克服に向けた原点となっており、宣言にある「人間は尊敬すべきもの」の精神は対人関係での大切な理念となっています。しかしながら、100年前に差別からの解放を願い立ち上がったにもかかわらず、いまだに差別をなくせていない現状があります。改めて、その時の人々の熱意にこたえるためにも差別解消に向けたさらなる決意が求められます。

差別のある社会は誰にとっても住みにくい社会であり、分断と不安をもたらす社会です。全国水平社創立100周年にあたり、原点を振り返り、差別のないあたたかな社会を願った人々の熱意と希望に全市民一丸となってこたえたいものです。そして、あたたかで人権意識の豊かな丹波篠山市を市民みんなで作っていきましょう。

あなたは、明るくあたたかな気持ちで人と接することができますか。家庭では、家族が一つになり、ほのぼのとした楽しい雰囲気の中で暮らしていますか。お住いの地域社会は、地域の人々のふれあいに満ち、笑顔あふれるおつきあいができていますか。身近なところから見直していきましょう。

丹波篠山市同教は、全市民参加の教育・研究組織として、市民の皆様の人権・同和問題を正しく理解するための学習機会を提供し、「人間は尊敬すべきもの」の理念に基づき、心あたたかなまちづくりに努めます。

皆様のご健康をお祈りするとともに、今年度も丹波篠山市同教へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

「人権・同和教育セミナー」受講のお知らせ

差別解消のためには、「差別の現状」「差別を生む社会の仕組み・構図」「差別と抗いながら生き抜いてきた人の生き様」「差別しない人の生き方」等をまず、正しく知る、正しく理解することが大切です。今年度も昨年度に引き続き、人権・同和学習を深める場として、そして差別をなくす実践力をつけるために1年間にわたる5回連続講座を企画しました。受講のお申し込みをお待ちしております。

参加費：無料(原則は5回連続受講。ただし都合で選択可)

会場：丹南健康福祉センター 研修室(予定)

申し込み締切り：7月22日(金)としますが、随時、市同教までお問合せください。

※市同教ホームページからも申し込み用紙をダウンロードできます。

	実施予定日	演 題	講 師
1回	8月6日(土) 14:00~16:00	「水平社宣言と 日本国憲法をつなぐもの」	元大阪市立大学教授 上杉 聡さん
2回	9月3日(土) 14:00~16:00	「はじめてみよう!これからの部落 問題学習」 ~部落差別解消推 進法をどう活かすか~	部落解放同盟兵庫県連合会 事務長 北川 真児さん
3回	10月1日(土) 14:00~16:00	「マイノリティ女性の生きづらさ ー差別の交差性を考える」	近畿大学人権問題研究所 特任講師 瀬戸徐 映里奈さん
4回	11月5日(土) 14:00~16:00	「差別と社会 ー差別が生じるメカニズム」	関西大学教授 内田 龍史さん
5回	1月29日(日) 14:00~16:00	「部落差別の解消に向けて」 ~人権教育・啓発の課題を ふまえて~	部落解放・人権研究所 事務局長 棚田 洋平さん

お申し込み先：丹波篠山市人権・同和教育研究協議会 事務局
電話/FAX：079-593-1260(月・火・木・金)

一枚の写真が世界を呼び覚ます



MINAMATA
シナマタ

ジョニー・デップが伝説の写真家の遺志を継ぎ、世界に伝える衝撃の真実

(C) 2020 MINAMATA FILM, LLC

みんなの人権を考える映画会

入場無料

映画『MINAMATA』とき 2022年8月11日(木・祝日) 14:00～
—ミナマター— ところ 丹波篠山市民センター・多目的ホール

今なお世界で注目されるフォトジャーナリストであるユージン・スミスはアメリカのグラフィック誌「LIFE」のメインページを幾度も飾り、多大な功績を残しました。ユージンは第二次世界大戦の取材中、沖縄戦の撮影で大ケガを負い、また心にも傷を抱えました。そんな彼が妻のアイリーンとともに、水俣病の重大さに気づき、水俣で3年間を過ごし取材しました。そして1975年に彼の遺作ともなった写真集『MINAMATA』が発表されました。

俳優のジョニー・デップは今もまだ続く水俣の危機をとりあげ、世界で同じように環境被害に苦しむ多くの人々をも照らし出そうと、自ら主演しプロデューサーにも名乗りでました。こうして水俣での事実を世界へ伝えるために『MINAMATA』は映画化されました。この映画は、ジョニー・デップが発信する警告と希望のメッセージなのです。

物語は1971年のニューヨークから始まり、報道写真家として評価をされながらも心に傷を抱えたユージンが、アイリーンとともに水俣を訪れ、人々の日常や抗議運動、補償を求める様子を写真に収めていく日々が描かれていきます。人々の暮らしに寄り添ったユージンがカメラを通して見たものは、闇に包まれた苦悩の瞬間と、光として浮かび上がる人間の命の美しい輝きでした。是非ご参加ください。

フィールドワーク参加者募集！
丹波篠山市人権ゆかりの地を訪ねて

丹波篠山市内の人権史跡を巡ってみませんか。丹波篠山の戦前から戦後にかけての在日コリアンの足跡を辿るフィールドワークを企画しました。是非ご参加ください。

◆ 行き先

小倉ふれあいセンター・豊林寺・百合山
鉱山・火薬庫跡・鳥山鉱山・小林天岩鉱山
※コースは都合により変更することがあります。

※バスで移動しますが、一部山歩きをします
ので運動靴等で参加ください。

◆ 実施日

8月28日(日)
9:00～12:30

◆ 講師

市同教啓発推進委員

◆ 参加費

無料

◆ 問い合わせ

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会 月・火・木・金 9時～17時
TEL・FAX 079-593-1260

◆ 定員

15名(先着順)

◆ 申込受付

7月1日(金)～
7月29日(金)

◆ 集合場所

城東支所



小倉ふれあいセンター ロース岩
(当時、近くの川原にあった砒石)

研修に「丹波篠山の人権史跡」を巡る
フィールドワークに取り組んでみませんか？

人権史跡を知ることは、私たちの先人の生き様を知ることです。
市内には、過酷な藩政に抗った人々の足跡や生活向上のために立ち上がった人々の碑、教育や文化の拠点など様々な史跡があります。

そうした史跡を巡ってみませんか？フィールドワークを希望される団体には、丹波篠山市同教より、半日5千円の講師料を補助します。詳しくは丹波篠山市同教までお問い合わせください。

主な行事予定

*7月30日(土)

兵庫県人権教育研究大会 丹波地区大会
四季の森生涯学習センター
(オンラインと直接参加を併せたハイブリッド方式の開催)

*9月24日(土)

兵庫県人権教育研究大会 中央大会 尼崎市(オンライン開催)

*11月26日(土)、11月27日(日)

全国人権・同和教育研究大会 奈良県大会
奈良市・生駒市・大和郡山市・橿原市

*12月11日(日)

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会研究大会
会場:丹波篠山市立田園交響ホール

掲示板

編集委員紹介

安井 聡博 西田 こす枝 中井 慎太郎 森田 貞二

本年度は、上記の4名の委員で編集を行います。
会報が皆様に親しまれ、人権をより身近なものに感じていただけるよう、紙面づくりにとりくみます。

※掲載しております研修会やイベントは、新型コロナウイルス感染拡大状況により、変更や中止になる場合があります。市同教ホームページまたは電話(月・火・木・金/9時～17時)にてお問合せください。

暮らしの中から

「ある母親の叫び！」

「私の子どもは、さし障(さわ)りがあって、害のある子なんですか!」と、押し殺した思いを絞り出すかのように、教室全体に響き渡る声で、ある母親が訴えておられました。その叫びを聞いたのは、自分が24歳の時で、今から40年以上も前のことです。

このことは、自分が教職員として勤めていたことで、小学校で教育課題について語り合う集会での出来事でした。その集会では、保護者の方々も自由参加でした。「障害児教育」について語り合うことになっており、教室の入り口には「障害児教育分科会」という案内が貼られていました。その案内を指さしながら、その母親は怒りに震えながら、分科会が始まる前に叫ばれたのです。母親は、これまで我が子を愛し慈しみ、我が子の命を守るために必死で生きて来られた思いを、自分たちに向かって切々と語られ、「なぜ、どうして、この子がさし障(さわ)りがあって害のある子なんですか!この〈障害(しょうがい)〉という言葉について、ここにいらっしゃる先生方は、どう思っておられるのですか!お聞かせください」と、全員に、そして、自分自身にも問いかけられました。しばらくの間、静寂した時間が流れましたが、その母親の叫びに答える先生方はおられませんでした。自分も激しく動揺し、右往左往するばかりでした。

自分は、これまでの24年の人生において「障害」という言葉をずっと使い続け、何の疑いも持たずに歩んでおりました。しかし、この母親の訴えに接し、大切に育ててこられた我が子との愛しい日々をこの言葉は壊していくのだと「障害(しょうがい)」という言葉の重み・矛盾を、ほんの少しずつですが、受け止めることが出来てきたように思われました。

そんなおり、700人ほどの方々が集う「人権研修会」がありました。講演の最中に、その出来事は起こりました。講師の方が「私の子どもは、塾に行っていないので、いわゆる〈未熟(塾)児〉なんです」と発言されたのです。会場の中からも、笑いが漏れておりました。その瞬間、798グラムで誕生した我が子の微笑みが脳裏をよぎると共に、講師の方の発言に憤っておりました。798グラムで誕生してきた我が息子は、何度も「超未熟児」と呼ばれてきました。そのたびごとに「愛しい我が息子が、どうして〈超未熟児〉と呼ばれなければいけないんだ」と心の中で怒りに震え、叫んでおりました。その研修会の質問コーナーで、私の思いをぶつけようとしたのですが、その思いを伝えることは出来ませんでした。このままでは、798グラムでこの世に生を受けた息子に、父として向き合うことができないと悶え苦しんだこと、また講師の方は、これからも、どこかの会場で「未熟(塾)児」の言葉を再び使い、自分のような思いをされる方をつくられるんじゃないかと思ったこと等々のことが、自分の心を締め付け、悶々とした日々が続いておりました。しかし、一ヶ月後、講師の方に、自分の思いを訴える機会が訪れ、思いを伝えることができました。「未(熟)児」と「未(塾)児」を重ね合わす言い回しの過ちに気づいてくださり、二度とこのような誤った表現をしないことを講師の方は約束してくださいました。愛しい息子への誇りをほんのわずかですが、取り戻せたように思われました。

この体験は「なぜ、私の子どもは、さし障(さわ)りがあって、害のある子なんですか」と訴えられた母親の思いと相重なるところがあります。「障害(しょうがい)」という言葉、「未熟児」という言葉は時として、人の心を傷つけることがあります。これらの言葉だけでなく、日常会話の中で様々な傷つける言葉が散在していることでしょう。一つ一つの言葉を検証していると、枚挙にいとまがありませんが、人の心を包み込むあたたかい言葉を追い求めようとする努力を続けていくことが大切なことと思われるのです。

森田 貞二

編集後記

先日、映画『MINAMATA』を観ました。明らかに公害はあってはいけません。何の罪もない多くの人々が被害にあい、今なお苦しんでおられる事実があることに言葉も出ませんでした。この映画を観るまでは、水俣病は私にとって教科書で習った1ページにもみたくない出来事にすぎませんでした。

映画の最後には、インドネシアやブルキナファソの金採掘による水銀汚染、ドミニカのバッテリー工場による鉛汚染、カナダの製紙工場による水銀汚染、バングラデシュの地下水のヒ素汚染など、現在も世界の多くの地域で起きている公害や環境汚染があげられています。こうした事実こそ、この映画が伝えたかった「水俣病は、過去ではない」ということ、そしてこの映画がなぜいま制作されたのか、ここにより深い意味があったのではないかと考えさせられました。

役員紹介

会 長

溝畑 賢

副 会 長

五十山田潤
細見 悟
藤田 泰造
近成 真介
太田 鈴子

会 計

中村 直美

会計監査

山田 俊朗
青木 直

顧 問

森本 正己

理 事(団体選出)44名